



# NEWS RELEASE

【報道関係各位】

2021年2月19日  
一般財団法人 日本気象協会

## 日本気象協会 2021年 春の花粉飛散予測(第4報) ～花粉シーズンがスタート！九州、四国では早くもピーク時期に突入！～

◆2021年 春の花粉飛散予測のポイント (2021年2月19日 発表)

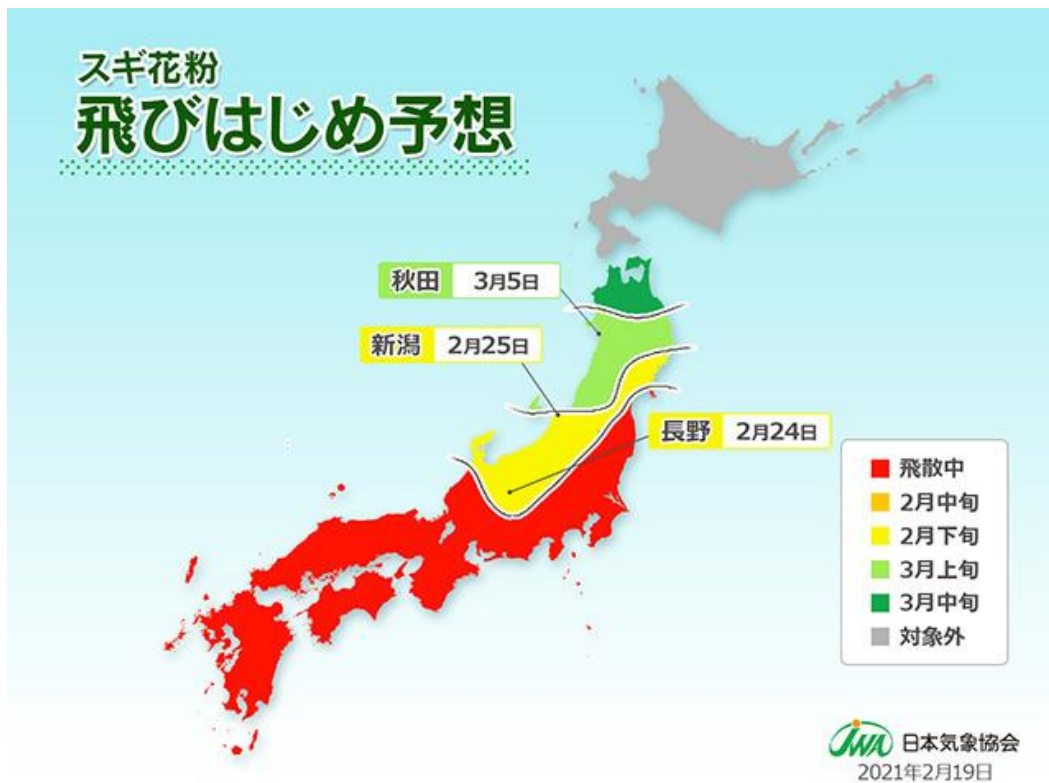
- ・九州から関東、東北南部の一部でスギ花粉の飛散が開始
- ・九州、四国全域でスギ花粉のピーク突入！
- ・飛散量は九州から関東で前シーズンより多い予想

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：長田 太）は、2021年2月19日（金）に全国・都道府県別の2021年春の花粉（スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ）飛散予測（第4報）を発表します。また、詳細な情報を、「2021年春の花粉総飛散量 予測資料」として販売します。

### 1. スギ花粉の飛散開始時期

1月半ば頃から平年を上回る暖かさの日が増えて、2月4日（木）には関東で統計開始以来、最も早く春一番が吹きました。2月上旬には九州から関東で広く花粉の飛散が開始\*しました。東京・大手町では2月13日（土）に飛散開始しています。また、東北南部の一部でも飛散開始となっています。

まだ飛散開始していない東北南部の地域でも、2月中に飛散開始となるところが多いでしょう。3月上旬から中旬になると東北北部でも飛散開始となる見込みです。



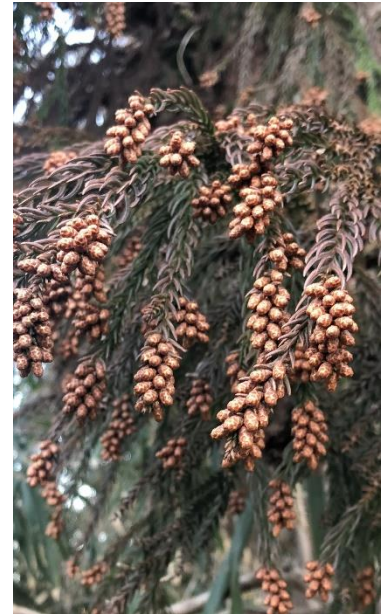
\*飛散開始日：1平方センチメートルあたり1個以上のスギ花粉を2日連続して観測した場合の最初の日



岐阜県関ヶ原町と滋賀県米原市の県境  
(2月7日撮影)



徳島県三好市(2月13日撮影)



茨城県守谷市(2月16日撮影)

## 2. 各地のピーク予測

スギ花粉の飛散開始は、例年に比べて早いところが多く、ピークの時期もやや早いでしょう。これは、この先全国的に気温が高くなることが予想されるためです。九州では全域でピーク時期に入っており、2月いっぱいまでピークが続く見込みです。四国でも全域でピーク時期に入り、3月上旬まで続くでしょう。大阪、広島では、まもなくピークが始まる見込みとなり、名古屋・東京では3月上旬から中旬にピークとなる予想です。金沢・仙台のピークは例年並みで、3月中旬から下旬にかけてとなるでしょう。

スギ花粉のピークが終わる頃になると、ヒノキ花粉が飛び始め、その後ピークが始まります。福岡では3月中旬から4月上旬、高松や広島、大阪では3月下旬から4月上旬の見込みです。ヒノキのピーク時期も例年よりやや早いところがあるでしょう。名古屋・東京では4月上旬から中旬にヒノキ花粉の飛散のピークとなる見込みです。金沢と仙台は、4月を中心にヒノキ花粉が飛散しますが、飛散量は他の地点と比べると少ないため、はっきりとしたピークはないでしょう。

### 2021年 スギ・ヒノキ花粉のピーク予測

2021年2月19日発表

地点	種類	2月			3月			4月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
大阪	スギ			■						
	ヒノキ							■	■	
広島	スギ			■						
	ヒノキ							■	■	
高松	スギ			■						
	ヒノキ							■	■	
福岡	スギ			■						
	ヒノキ							■	■	

### 2021年 スギ・ヒノキ花粉のピーク予測

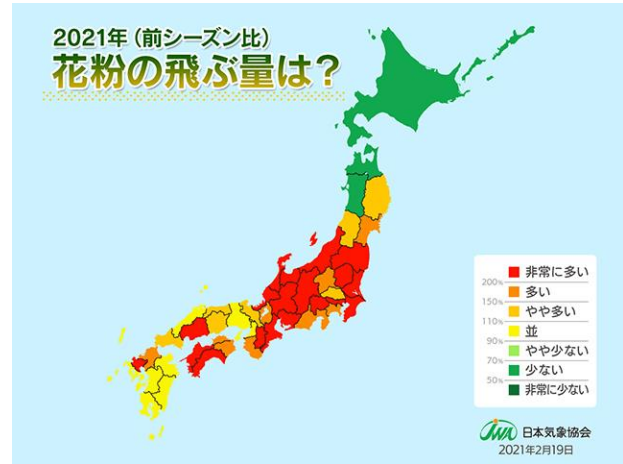
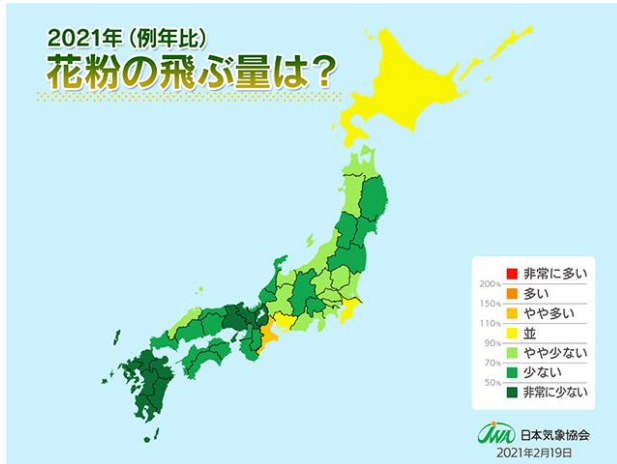
2021年2月19日発表

地点	種類	2月			3月			4月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
仙台	スギ									
	ヒノキ									ピークなし
東京	スギ									
	ヒノキ									■
名古屋	スギ									
	ヒノキ									■
金沢	スギ									
	ヒノキ									ピークなし

### 3. 2021年シーズンの花粉飛散傾向

2021年春の例年比での花粉飛散傾向予測は、九州は例年より非常に少ない見込みです。中国、四国、近畿、北陸、関東、東北では例年と比較して少ない、またはやや少ないでしょう。東海と北海道は例年並みの予想です。

一方、前シーズン比（2020年春との比較）で見ると、九州から関東にかけて多く、四国や東海、北陸、関東で非常に多くなる予想です。これは前シーズンが例年より少なかったためであり、前シーズンに花粉症の症状が軽かった人も2021年春は注意が必要です。東北は前シーズン並み、北海道は前シーズンより少なくなるでしょう。



### 4. 各地域の花粉飛散傾向

地方	飛散量				2020年夏の気象		
	例年比	地方平均値	前シーズン比	地方平均値	気温	降水量	日照時間
北海道	例年並	100%	少ない	60%	高い	平年並	平年並
東北	少ない	60%	前シーズン並	90%	高い	多い	平年並
関東甲信	やや少ない	70%	非常に多い	220%	かなり高い	かなり多い	平年並
北陸	やや少ない	70%	非常に多い	270%	高い	かなり多い	少ない
東海	例年並	90%	非常に多い	230%	かなり高い	かなり多い	平年並
近畿	少ない	50%	やや多い	140%	かなり高い	かなり多い	平年並
中国	少ない	50%	やや多い	120%	高い	かなり多い	平年並
四国	少ない	60%	非常に多い	210%	高い	多い	平年並
九州	非常に少ない	30%	やや多い	120%	高い	かなり多い	平年並

## 5. スギ花粉のライフサイクル

スギ花粉は1年間を通じて、生長・形成・開花を経て、花粉を飛散します。飛散した花粉からまた生長が始まります。



## 6. 飛散量の予測根拠

花粉の飛散量は前年夏の気象条件が大きく影響します。気温が高く、日照時間が多く、雨の少ない夏は花芽が多く形成され、翌春の飛散量が多くなるといわれています。

日本気象協会では、気象データに加え、前シーズンの花粉飛散結果や今後の気温予測などのデータ、および全国各地の花粉研究会や協力機関からの情報、花芽調査の結果などをふまえて予測しています。花芽調査では、スギやヒノキなどの植物に詳しい「植物のプロ」や、花粉の研究に長年携わっている学識者の協力を得ながら、その土地の気候や地形を知る「気象のプロ」による定点観測を重視しています。

### 【花粉の種類について】

北海道はシラカバ、その他はスギ・ヒノキ花粉の飛散量を表します。

### 【飛散量に関する言葉の説明】

非常に多い	: 前シーズン (例年) の 200%以上
多い	: 前シーズン (例年) の 150%以上 200%未満
やや多い	: 前シーズン (例年) の 110%以上 150%未満
前シーズン(例年)並	: 前シーズン (例年) の 90%以上 110%未満
やや少ない	: 前シーズン (例年) の 70%以上 90%未満
少ない	: 前シーズン (例年) の 50%以上 70%未満
非常に少ない	: 前シーズン (例年) の 50%未満

前シーズン	: 2020 年シーズン飛散量
例年	: 過去 10 年(2011~2020 年)の平均値

### 【2020 年夏の気象に関する言葉の説明】

平年	: 1981~2010 年の平均値
----	-------------------



#### ◆日本気象協会の花粉飛散予測とは

日本気象協会は 1990 年からスギ花粉の飛散予測を発表しています。日本気象協会の花粉飛散予測は前シーズンの花粉飛散結果や今後の気温予測などの気象データをもとに、全国各地の花粉研究会や協力機関からの情報、花芽の現地調査の結果などをふまえて予測しています。

- 本情報の無断での法人利用(プレスリリースでの引用や販促目的使用など)はご遠慮いただいております。  
商品 PR などで法人利用をご検討の際はお問合せフォーム(<https://www.jwa.or.jp/contact/>)からご連絡をお願いします。

以上

#### 参考情報

天気予報専門メディア「[tenki.jp](https://tenki.jp)(てんきじえーびー)」では、各地の花粉飛散情報を提供しています。全国各地の一週間先までの花粉飛散情報がランク別に分かるほか、今シーズンは新たに全国の「ヒノキ花粉 飛散予測マップ」を公開しています。日々の花粉対策に、「[tenki.jp](https://tenki.jp)」の花粉飛散情報をご活用ください。

「[tenki.jp](https://tenki.jp)」花粉飛散情報 <https://tenki.jp/pollen/>

- 「[tenki.jp](https://tenki.jp)」は、一般財団法人 日本気象協会の登録商標(登録第 6129427 号)です。
- 製品名、サービス名などは一般に各社の商標または登録商標です。
- 内容は発表日現在のものです。予告なしに変更されることがあります。